

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370102727		
法人名	特定非営利活動法人あやの里		
事業所名	グループホームあやの里第一		
所在地	熊本県熊本市山ノ内2-1-14		
自己評価作成日	平成21年11月20日	評価結果市町村受理日	平成22年2月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4370102727&amp;SCD=320">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4370102727&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成21年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑に囲まれた平屋造りのホームは、どなたでも気軽に立ち寄られるよう常に解放し、敷地内には犬やウサギ、ニワトリ達が家族の一員として生活している。今年3月にオープンした中庭「あやさん」には四季折々の花々が咲き、小さな小川が流れ、来訪者を優しく迎えられるように整えている。子供達の元気な姿を見られる場面も多く、動物と戯れる笑い声が響き渡り入居者の方も自然と笑顔がほころぶ。また、近隣の方の散歩コースとなっており、入居者の方と言葉をかわされた場面も見られる。入居者を支援する職員は、定期的に接遇を学び入居者の方をはじめ、ご家族や来訪者の方が心豊かな気持ちで施設を後にされるよう笑顔と気持ちの良い挨拶を心がけている。入居者の方は80歳以上と高齢ではあるが、馴染みの場所・人々に囲まれ生き生きと活動され、その姿に私達職員も活力を頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広い敷地に、小川の流れる中庭、柿や柑橘類の樹木、花や野菜の植えられた畑など、緑がいつぱいの環境は、入居者の元気の基となっている。午前中のひととき、中庭のベンチでゲームや体操をし、笑顔でお茶を飲む和やかな様子が見られた。職員の笑顔と無駄のない静かな言動にはプロとしての高い意識と、ケアに対する向上心が見られ、法人もスキルアップへの協力体制と労務環境を整えている。家族との信頼関係も構築されており、看護職員の厚さや協力医との密接な連携は、家族の安心に繋がっている。校区の公園へ、おにぎりを持って散歩に出掛け、ママと赤ちゃん、保育園児と合流する子育て支援活動も計画中で、地域の社会貢献にも配慮している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の安全と尊厳を守り、地域住民の一員としてその人らしい生活を維持できるよう、管理者が年度初めと中期の職員全体会で話があったり、朝礼で事例を通して学び、理念の共有と実践に取り組んでいる。	理念は、家庭的な環境の中で地域社会の一員として、安心と尊厳ある生活を謳っている。理念は、研修や日々の暮らしの中で職員に浸透し、ケアの実践に繋がっていた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加し、日頃の散歩で声を掛け合ったり、地域からもホーム内の行事参加やボランティアの支援を受けている。3月に中庭「あやさん」が完成し地域の方達が気軽に立ち寄れる憩いの場所となっている。	「地域支援部会」が中心となり、地域行事や草取り・清掃など地域との積極的な繋がりが図られている。事業所自体を街の一角に見立て、中庭は、地域の子どもの遊び場や地域住民の散歩コースとして開放し、地域住民との自然な交流ができています。	地域行事への参加や施設中庭を開放し、子供たちや近隣住民との交流は出来ているが、地域いきいきサロン等、広域の参加者で構成される集いは、認知症等の理解が今後の課題として見られる。更なる広域交流が可能になる事を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が地域での「イキイキサロン」や民児協での講演を行い、認知症の理解や予防などの啓発活動に努めている。又、お困りの時は随時相談を受け、緊急の際でも対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に開催しており、事業報告・計画、利用者の状況や活動報告、事故報告、地域交流・ボランティア報告などを行い、情報や意見交換の場となっており、日々のサービスに活かせるように努めている。	運営推進会議は、年間の開催日を年度初めに周知し、奇数月に地域包括支援センター・社協会長・家族が参加し開催している。事業の計画や報告、意見や質問を交換するなど、学びの場として有意義に活用されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月、市の支援相談委員会の方に来て頂いたり、利用者の100歳の祝賀会に市の職員に来て頂き表彰状を渡してもらっている。その他、随時不明な点など市町村窓口や電話で気軽に相談し対応して頂いている。	毎月、市の支援相談員の来訪があり、気づきに役立っている。また、行政の視察や研修での訪問も多く、相互の協力体制が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理念に拘束をしないケアの実践も含まれており、朝礼や職員全体会で事例や場面を通して理解を深めている。又、言葉での拘束がないよう職員同士でチェックしあっている。日中は鍵をせず開放的な環境を努めている。	朝礼や研修で十分理解を深め、見守りを徹底することで、身体拘束や言葉の拘束が無いよう努めている。夜間は転倒の心配のある入居者のみ、枕から頭部が15度上がると知らせるセンサーを使用し、事故防止と安全管理に配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム内では、当然あってはならない事であり、研修会に参加した職員から研修復講を通して学びながら、あやの里を利用される方に対しても関心を持ち、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市・県主催の研修会には必ず参加して、職員内部研修や全体会議で復講し誰でも学べる機会を設けている。支援が必要なときは関係者と話し合い活用されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の内容を一つ々読み合わせ、特にご注意くださいと頂きたい事については、十分説明し納得・理解して頂いたらサインと捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会又は面会時にご意見を頂いており、苦情や不満が寄せられたときは、速やかに改善に向け取り組んでいる。玄関にご意見箱を設置。市の支援相談委員の方の来訪で結果報告を受け反映させている。	家族アンケートを実施し利用者意向とサービス内容の充実を図っている。毎月行われる自主運営の家族会や面会時に家族との信頼関係を深め、要望を言い出しやすいよう努めている。意見・要望は、主任会議で検討し、運営に反映する姿勢がうかがえた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼や主任会議で意見を聞いたり、気づきシートを通して職員の意見を、速やかに問題解決や改善に努めている。	法人全体の職員が一同に集まり相互の情報を報告する朝礼や棟会議で意見や提案を聴く体制が整っており、早めの問題解決に繋がっている。「気づきシート」が活用され、職員の意見・要望は、週1回の主任会で確認・検討し、職員へのフィードバックや必要に応じて法人に相談・提案を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	準職員、正職員登用制を設けている。職員は資格取得に取り組み、毎年合格者が出ている。合格者には運営者より職員全体の席で皆に伝えられ、拍手の中報奨金が出され、モチベーションアップにつながっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内・外部研修の参加支援を積極的に行っており、内容に合わせて参加希望者を募り、研修後は報告書を提出し他の職員に復講して学びを深めあい、実際のケアに活かせるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のGH連絡会に参加して、他の事業所と研修に参加したり、意見・情報交換や施設見学を行っている。他にも電話などで多事業所と空室の状況や相談しあうなど連携をはかっている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学に来て頂いて、まずは施設内をご案内し不安の軽減に努め、静かに落ち着ける空間の中でお茶を飲みながらリラックスして頂く。利用者の方の表情を観察しながら、ゆっくりと困りごとを聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族にも施設内をご案内し、実際に入居者の暮らしぶりや職員の対応、環境を見て頂いている。その後、利用者の方の生活や介護上の困りごと、不安、辛さなど十分に話を聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要と思われるサービスの内容や費用を紹介し他の事業所などの情報やインフォーマルでの支援などのアドバイスをを行い、ご本人やご家族が選択できるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護の多くは自立支援であり、一日の時間を利用者の方と共に過ごし、その中で生活歴や体験談を聞く機会が多く、学んだり共に笑ったり、悲しんだりする場面もあり職員が慰められたり、癒されたりすることも多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や面会時にご本人の様子をお伝えしたり、必要時はご家族との連絡確認簿に記入し情報を共有し、また、職員より提案などを行い協力をお願いし、共にご本人を支えていくという関係づくりができています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	センター方式を活用し、ご家族のお名前や友人、知人などの情報を得て、日頃の生活の会話の中でも話題にし、関係継続に努めている。	センター方式を出来るだけ詳しく記入し活用することで、本人の気持ちを大切にされた支援が実施されている。家族からのFAXや手紙を大切に、家族との連携ノートは細やかに記録されている。家族との墓参りや外食、友人の訪問も多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が馴染めるように、その都度名前を呼んで紹介したり、団欒や軽作業の中で職員も必ず加わり中間的な役割を努め、孤立されないように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により契約が終了した後も、病室を訪ね連絡帳を活用し、関係の継続に努めている。退院後は再入居を優先している。退居された場合でも、電話やケアマネを通じて様子をうかがっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや願いを十分に聞いて、まずは個性を尊重し生活歴や家族構成・好み等より多くの情報を把握しプランやケアにつなげている。意志表示が困難な方には、表情や動作などから思いに近づく努力している。	家族の協力を得て、多くの情報を基に入居者の意向を推察している。また、職員は、“本人の満足と納得を最優先に”との視点で、暮らしの中での言葉や表情、仕草から思いを読みとり、心に寄り添うケアに繋げる努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の話の聞いたり、センター方式を活用し多くの情報を全職員で共用し、これまでの暮らしを大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居後は、利用者の方に関心を向け気付きや情態の変化時はケース検討会を行ったり、朝礼で報告し管理者や他の職員にアドバイスを受け、職員が共通の認識を持ちケアに取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の要望や状態をよく把握し、センター方式を参考にしてアセスメントし、ケアプランは関係者や職員とよく話し合い、誰でもわかる内容で個別性のあるプラン作りに努めている。	毎週行われるケース検討会議や部所会でアセスメントし、全職員の気づきを介護計画に反映するシステムができている。家族との連携シート、検査データ、処方箋、経過記録すべて確認し、毎日のケアに活かされるプランづくりが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や経過、新たな気づきなどは毎日支援経過に記録し、要点は申し送りノートを活用し全職員が目を通しサインをして情報を共有している。それ以外にも必要に応じてセンター方式のシートを活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同じ敷地内のGH、デイ、有料老人ホームはどの利用者も自由に行き来ができ、お客として迎えられたり、逆にお客様への対応をしながら気分転換につながっている。又は、ご本人やご家族と相談し転居も支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方や民生委員の方のボランティアや近隣の子供さんの来所は、利用者の方たちの楽しみや活気につながっており、地域に支えられていると感じられる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に応じてかかりつけ医を決めていただき、主治医と24時間連携できる体制が確立されている。緊急時や専門医受診時も希望の医療が受けられるように情報提供を行うなど支援している。	入居者の希望にあわせかかりつけ医受診や協力医への受診と選択され、同行受診を行って、情報の共有に努めている。緊急受診や専門医受診には時系列の経過記録や状況写真を添えた情報提供を行って、円滑な連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の健康管理や医師との連携は、担当看護師が中心となり行っている。急変時や夜間も他棟家の看護師を含めて連絡、対応できるように連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は、馴染みの職員が交代でお見舞いに行き、写真とメッセージ入りの色紙を持参し不安を軽減できるように支援している。連絡帳を活用しご家族と情報交換を行ったり、医療関係者や主治医、ご家族と連携し、早期退院に向けて支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化指針」について書面を通してご家族へ説明し確認を取り、重度化された時は「終末生活支援」について段階的に代表、主治医、ご家族、関係スタッフと十分な話し合いを重ね、書面に残し他の職員も方針を共有できるようにしている。	入居時に、家族に対して「重度化した場合の対応指針」を説明し、重度化・看取り支援に関する意向のアンケート調査を実施している。家族会等で過去の実施事例を報告し、必要に応じて、家族・主治医・事業所の三者で「重度化及び看取り支援確認書」を取り交わしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的にナース会や健康教室を行っており、テーマに合わせて職員研修で実演指導も入れながら気軽に質問したりして学びの機会をもっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月一日は防災の日として、訓練計画に沿って、防災器具の点検や避難経路の確認・点検などを行い、職員全体会で防災訓練を実施。新任者にも個別に指導を行い、誰でも対応できるように心がけている。	「毎月1日は防災の日」とし、避難経路確認や夜間想定など様々な研修や訓練を、毎回ほぼ全員の職員参加で実施している。民生委員や近隣の協力員など地域の協力体制も構築されている。	法人全体として、非常災害時の地域の拠点となるよう、より一層の地域への働きかけを期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重し言葉かけと対応に特に注意している。職員研修や朝礼でもマナー教育や指導が行われ、年長者への敬いの心を忘れないように心がけている。特に入浴や排泄時にはさりげなく羞恥心に配慮している。	接し方や言葉かけに、礼節と尊敬をもって接するという理念が浸透していることがうかがえた。排泄チェックは、“健康を確認するためのもの”と毅然とした姿勢で対応することで、羞恥心に配慮されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	同じ高さの目線で、ゆっくり、わかりやすく話をし、また相手の話を腰をおろしてじっくり聞く姿勢をとる、急がせずゆったりした態度でご本人が自己決定しやすい雰囲気をつくるよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り意思を尊重し、個人のペースで生活できるよう心がけている。得意なことや関心のあることを把握し、ご本人がやりたい事をやりたい時に出来る、やりたくなるような場面づくりを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者やご家族の希望に応じて行きつけの美容院へ外出されたり、定期的にお店よりカットに来て頂き希望される方は利用されている。外出や家族会の時は、ご本人と服を選んだりおしゃれを楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者お一人お一人の好きな物、苦手な物を把握し、調理、配膳、片付けは職員が利用者とともにしている。時には料理法を共に考えたり、味付けをお願いしたりして楽しみながら行っている。	バイキングの実施や、朝食はお粥とご飯を選択でき、自分で食欲に応じて注ぎ分けるなどの配慮が行われている。菜園で収穫したサツマイモをすぐにイモ天にしておやつにするなど、食と楽しみが繋がる工夫がされていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量をチェックし記録に残し、摂取量の少ない方は、食事・水分チェック表に細かく記入し、体重増減も注意している。原因を知り食べたい物や食べやすい形態などの工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、口腔内のチェックを徹底して行っている。毎月歯科衛生士の方に個別にケアを指導して頂いている。結果は口腔内チェック表に記入し職員間で情報を共有している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	「トイレでの排泄」を原則とし、個人の排泄パターンを経時的に把握してセンター方式のシートに記入し対策を検討し、オムツの減量作戦に取り組んでいる。	入居者の排泄パターンを全職員が把握しており、的確なトイレ誘導により、排泄の自立支援が行われている。本人の不快感と家族の負担を意識し、排泄と健康管理の繋がりを認識することで、おむつの減量に成果を上げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分・食事の摂取量や疾病を把握し、栄養士や看護師・介護職などと個別に対応・対策をとっている。排便観察は24時間を通して行い、朝礼で報告・確認をとりあっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	通常では隔日に入浴日を定めているが、利用者が希望される時は対応している。特に夏場はシャワー浴を随時行っている。	入浴は隔日に設定されている。夏場は毎日、希望や汚染など必要時には柔軟に対応している。風呂場で民謡をかけたり、脱衣所のベンチでお茶を出したりと、入浴誘導の工夫がされている。毎日、夜間の入浴も検討中である。	利用者の希望に合わせて入浴を楽しめる様、毎日の設定や、夜間の入浴も可能となるよう、検討を期待する。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間の活動・夜間の安眠を心がけている。6～10月は午睡時間を40分程設けている。ソファーやリクライニングチェアを常備し、昼間の休息も充分とれるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のファイルに処方箋を閉じ、全職員が与薬マニュアルに沿って投薬を徹底できるように取り組んでいる。症状と与薬後の経過については、主治医と連携をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式をとおして、又日々の暮らしをとおして、自主文化活動や余暇活動をホーム内外の行事参加など支援を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	身近な日用品、小物などの購入やご家族と連れ立っての外出、地域行事への参加もご本人の意思を尊重して支援している。	郵便局やウィンドウショッピング、地域の行事参加、馴染みの美容室など、日常的な外出支援が行われている。家族と共に観劇や外食、古里訪問、自宅への外泊など、家族の協力を得て、入居者の希望を把握した外出支援を心がけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の理解を得て、ご本人が管理可能な範囲で自室管理をしていただいている方もおられる。希望されれば、パーマや日用品などのショッピングで財布管理を行って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	便せんやボールペンを用意し、環境や場所を整え、返事が書けるようにし、写真や職員の文章などを添えて返信している。電話や手紙の交信は自由にできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	住み慣れた暮らしを支持出来るように、居心地の良い「家庭」環境づくりを行っている。照明は間接照明で温かみがあり、大きな窓からは菜園の野菜や花が見られ、四季を感じられるような空間づくりをしている。	リビングの大きな窓からは四季折々の花や菜園が見られ、台所からの音や香り、開放感、BGMなど、光・音・空間など五感を刺激するよう配慮されている。テラスへの出入り口の清掃や足元の段差等も配慮され、安全と安心のくつろぎ空間づくりが整えられていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室や3か所の居間やホーム内の馴染みの場所を自由に使って頂いている。ピアノやお琴を弾かれたり、気の合う方とテラスに出られたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室は、ご本人やご家族と話し合いながら(和室・洋室)決めている。今まで慣れ親しんだ家具や調度品を置いたり、ご家族の写真やご主人の位牌を置いて花やお供え物したりとお好きなようにして頂いている。	居室は寝室としての利用が多く、使い慣れた家具やちゃぶ台、位牌や家族の写真や飾られ、スッキリと整理されている。家族からの求めに応じて、持ち込み品のアドバイスをっており、利用者ごとの居室らしさ作りに努力が見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関には段差の少ないマットをし、ホーム内のトイレ・浴室・ベランダには手すりを設置し、トイレは照明付きの表示をし、自室入口には、木製の表札をつけてわかるような支援を行っている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370102727		
法人名	特定非営利活動法人		
事業所名	グループホームあやの里第二		
所在地	熊本県熊本市山ノ内2-1-6		
自己評価作成日	平成21年11月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.ip/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4370102727&amp;SCD=320">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.ip/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4370102727&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成21年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑に囲まれた平屋造りのホームは、どなたでも気軽に立ち寄られるよう常に解放し、敷地内には犬やウサギ、ニワトリ達が家族の一員として生活している。今年3月にオープンした中庭「あやさん」には四季折々の花々が咲き、小さな小川が流れ、来訪者を優しく迎えられるように整えている。子供達の元気な姿を見られる場面も多く、動物と戯れる笑い声が響き渡り入居者の方も自然と笑顔がほころぶ。また、近隣の方の散歩コースとなっており、入居者の方と言葉をかわされたる場面も見られる。入居者を支援する職員は、定期的に接遇を学び入居者の方をはじめ、ご家族や来訪者の方が心豊かな気持ちで施設を後にされるよう笑顔と気持ちの良い挨拶を心がけている。入居者の方は80歳以上と高齢ではあるが、馴染みの場所・人々に囲まれ生き生きと活動され、その姿に私達職員も活力を頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の安全と尊厳を守り、地域住民の一員としてその人らしい生活を維持できるよう、管理者が年度初めと中期の職員全体会で話があったり、朝礼で事例を通して学び、理念の共有と実践に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加し、日頃の散歩で声を掛け合ったり、地域からもホーム内の行事参加やボランティアの支援を受けている。3月に中庭「あやさん」が完成し地域の方達が気軽に立ち寄れる憩いの場所となっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が地域での「イキイキサロン」や民児協での講演を行い、認知症の理解や予防などの啓発活動に努めている。又、お困りの時は随時相談を受け、緊急の際でも対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に開催しており、事業報告・計画、利用者の状況や活動報告、事故報告、地域交流・ボランティア報告など行い、情報や意見交換の場となっており、日々のサービスに活かせるように努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、市の支援相談委員の方に来て頂いたり、利用者の100歳の祝賀会に市の職員に来て頂き表彰状を渡してもらっている。その他、随時不明な点など市町村窓口や電話で気軽に相談し対応して頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理念に拘束をしないケアの実践も含まれており、朝礼や職員全体会で事例や場面を通して理解を深めている。又、言葉での拘束がないよう職員同士でチェックしあっている。日中は鍵をせず開放的な環境を努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム内では、当然あってはならない事であり、研修会に参加した職員から研修復講を通して学びながら、あやの里を利用される方に対しても関心を持ち、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市・県主催の研修会には必ず参加して、職員内部研修や全体会議で復講し誰でも学べる機会を設けている。支援が必要なときは関係者と話し合い活用されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の内容を一つ々読み合わせ、特にご注意して頂きたい事については、十分説明し納得・理解して頂いたらサインと捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会又は面会時にご意見を頂いており、苦情や不満が寄せられたときは、速やかに改善に向け取り組んでいる。玄関にご意見箱を設置。市の支援相談委員の方の来訪で結果報告を受け反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼や主任会議で意見を聞いたり、気づきシートを通して職員の意見を、速やかに問題解決や改善に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	準職員、正職員登用制を設けている。職員は資格取得に取り組み、毎年合格者が出ている。合格者には運営者より職員全体の席で皆に伝えられ、拍手の中報奨金が出され、モチベーションアップにつながっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内・外部研修の参加支援を積極的に行っており、内容に合わせて参加希望者を募り、研修後は報告書を提出し他の職員に復講して学びを深めあい、実際のケアに活かせるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のGH連絡会に参加して、他の事業所と研修に参加したり、意見・情報交換や施設見学を行っている。他にも電話などで多事業所と空室の状況や相談しあうなど連携をはかっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設内を案内したり、同じ目線の高さでゆっくりと話ができるよう配慮したりお茶を準備しリラックス出来る環境を心がけている。本人の表情や口調などにも気をつけ困りごとや思いを受け止められるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族にも施設内を案内し、生活ぶり等を見ていただき、ご家族が話しやすい雰囲気を作って十分に時間をとり困りごとや不安なこと、要望などを尋ねご家族の気持ちをしっかりと受け止めるようにつとめている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容と緊急性を見極め様々なサービスの種類や内容、他事業所等の情報を紹介し本人、ご家族が必要とされるものの選択ができるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の得意とされている事、好まれること楽しみなど共に行う中で学ぶ機会があり、また、お茶をいただきながらお話ししていく中で生活暦や体験談などを聞き、笑ったり悲しんだりと共に過ごす時間を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や面会時にご本人の様子をお伝えしたり、必要時はご家族との連絡確認簿に記入し情報を共有し、また、職員より提案などを行い協力をお願いし、共にご本人を支えていくという認識をもっていたいっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	センター方式の情報をもとにご家族の名前や友人・知人の方のお話を日常の会話の中で話題としたり、これまで生きてこられた生活の場の話に触れたりして関係維持に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じ趣味を持つ人や、だんらん・活動などで職員も中にはいり、仲間づくりや馴染みの関係作りなど、入居者同士が関わり会えるような場面設定を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により退去されても職員が交代でお見舞いについて様子を伺い、ノートに面会時の様子を記入し情報交換を行い関係維持に努めている。退院後再入居を優先にできることをお伝えしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いを十分に聞いて、個性を尊重し生活歴や家族構成・好みなど多くの情報を把握しプランやケアにつなげている。意志表示が困難な方には、表情や動作などからご本人の思いに近づくよう努力している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族に話を聞いたり、センター方式を活用し、多くの情報を全職員で共有し、これまでの暮らしを大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居後は利用者の方に関心を向け、気づきや状態の変化時はケース検討会を行ったり、朝礼で報告し、管理者や他の職員にアドバイスをうけ、職員が共通の認識をもち、ケアに取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時、ご本人ご家族の思いをお尋ねしセンター方式により得られた情報を通して課題を把握し、誰でもよくわかる内容で個別性のあるプラン作りに努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践は支援経過表に記録し、要点は送りノートを活用し、全職員が目を通し、サインをして情報を共有している。それ以外にも、必要に応じてセンター方式のシートを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同敷地内に有料老人ホームやデイがあり、自由に行き来しながら交流を図ったり、一緒に行事に参加できるため気分転換にもなる。必要に応じてご本人やご家族と相談しながら事業所内の転居も支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方や民生委員の方のボランティアや近隣の子供さんの来所は、利用者の方たちの楽しみや活気につながっており、地域に支えられていると感じられる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に応じてかかりつけ医を決めていただき、主治医といつでも連携が出来るようにしている。救急時や専門医の受診も情報提供書をお渡しして情報交換を密に行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の健康管理や医師との連携も看護師が中心となって行っている。緊急時には昼夜を問わず即応できるよう連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連絡帳を用意しあやの里での思い出の写真やお見舞いを届け、顔なじみの職員が顔を見せ不安を軽減できるよう支援している。病院からの状態報告の際はご家族と一緒に報告を受け面会時は病院職員より病状報告を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、重度化指針や看取りについて、ご本人ご家族の意向を確認している。そのような状況になった時も段階的に事業所代表、主治医、ご家族、関係スタッフを交え十分な話し合いを重ね内容を書面残し方針の共有を図っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを整備し各棟に備えている。看護師を中心に急変時の対応など実演をまじえ定期的に勉強会を行い介護職もしっかりと学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回防災訓練にちなんで朝礼や職員全体会で訓練や申し合わせを行っている。避難経路に障害物等無いか・防災器具の点検などのチェックを定期的実施。近隣者からのサポート体制も整っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重し、特に入浴や排泄の言葉かけと対応には注意を払っている。職員研修や朝礼でもマナー教育や指導が行われ、年長者への尊厳の心を忘れないように心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	同じ高さの目線でゆっくりわかりやすく話をし、また相手の話を腰を下ろしてじっくり聞く、待つ姿勢をとり、急がせずゆったりした態度で本人が自己決定しやすい雰囲気作りを支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の得意とする事や好きなことなどを把握、その人がしたい時にしたいことが出来るよう場面作りを支援しお一人お一人の時間やペース、意志を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事や外出などが予定されている時は、前日より一緒に洋服を選んだり当日はお化粧をして出かけられている。またご希望時パーマをかけたり髪染めやカットなどが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを把握し、調理、配膳、片付けなどお一人お一人の力を生かしながら職員と共に準備を行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量をチェックし記録している。食事量の低下や体重減少など健康状態が気になる時には別紙に細かく記録し、捕食やカロリー・飲用、好みの物を準備し必要量を摂っていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・昼・夕の口腔ケア、口腔内チェックを徹底している。個々人の能力に応じて口腔ケアの実践を行っている。また、隔月に歯科衛生士の方に歯の状態を見ていただき指導を受けている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を原則とし、センター方式のシートを利用して個人の排泄パターンを把握している。また、紙おむつの使用量を減らす為の取り組みも行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便通を促す食物、乳酸菌飲料を摂取したり、運動を働きかけたりして快適な排便ができるよう努めている。特に腹部疾患の既往歴のある方に対しては、腹部状態のチェック等を行いながら予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日曜日以外入居者のご希望に添えるよう準備している。また、夏には入床前のシャワー浴等対応可能である。季節に応じたゆず湯・菖蒲湯・バラ湯等や入浴剤を利用しつるげる様支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間の活動、夜間の安眠を心がけている。6月～10月は午睡時間を40分ほど設けている。ソファやリクライニングチェアを常備し、昼間の休息も充分とれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個人ファイルに閉じ、日々確認出来るようになってきている。職員が与薬マニュアルにそって指示薬を徹底できるよう取り組んでいる。症状と処方経過については主治医と定期的に連携確認をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式を通して、また、日々の暮らしを通して自主文化活動や余暇活動、ホーム内外行事へ参加支援を行っている(年間行事一覧表参照)。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	身近な日用品、小物などの購入、ご家族と連れ立っての外出や、地域行事への参加も本人の意思を尊重して支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金が手元にあることで安心されることがあり、ご家族とも相談のうえ小遣い程度の現金をもたれている方もおられる。希望があれば、美容院や買物へ一緒に行き自ら代金を支払われたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人から手紙や贈り物が届いたら、静かな環境でゆっくりと返事が書けるよう支援する。届いた手紙や贈り物を手にとっている写真を添えて返信したりしている。また、電話も自由に交信していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	住み慣れた暮らしを支持できるように居心地の良い家庭環境作りを行っている。照明は間接照明で温かみがあり、大きな窓からは菜園の野菜や花がみられ、四季を感じられるような空間作りをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室では気の合った人と座って談笑されたり、テレビ視聴をしながらお話をされたりと自由に過ごされている。また、ピアノを弾かれている方やその周囲に集まり曲に合わせて歌われたりと好きなように過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていた慣れ親しんだ家具や調度品を置き、ご家族の写真やご主人の位牌を置いてお花を生けたりお供え物をされたりと、お好きなようにご本人が居心地よく過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関は抗菌マットを敷き、段差を無くしている。ホーム内はトイレ、浴室、ベランダに手すりをつけている。トイレは照明付きの表示をし、自立して自由で自然な生活が送れるよう整えている。		